

あわてず、会話を楽しんで！

言葉が出てくるまでには、準備が必要です。

まずは、子どもが見たり、聞いたりすることを会話の対象にして、一緒に楽しみましょう。㊦「ププー。」㊧「そうね。青いジドウシャね。」、㊨「ワンワン。」㊩「かわいいイヌね。」等と子どもの言葉を受けて、ゆっくり・はっきり対応する物の名前などを伝えていきましょう。このような関わりを通して、子どもの言葉のポケットに沢山の言葉がストックされ、その後言葉を話し始めるのです。

無理は、禁物！

言葉を覚えさせようと、「これは、「ねこ」でしょ。」「「ニャンニャン」じゃなく「ねこ」でしょ。」「ちゃんと試してみなさい。」等と押しつけていませんか。無理強いをすると、不安や緊張感を覚え、話すことが嫌な子になってしまいます。

相談事例 ④ 言葉の遅れ

近所の子どもたちは、いろいろなものの名前をたくさん話しているのに、2歳になるうちの子は、まだはっきりした言葉を話しません。何か問題があるのでしょうか。



耳の調子は、大丈夫？

耳に耳垢がつまっていたり、耳に異常が生じていたりして、聞き取りにくくなっている場合もあります。聞こえの様子がおかしいときには、専門医の診察を受けてみましょう。

親がお手本！

子どもは、一番身近な親をお手本にします。親が、ゆっくり・はっきり・正しく発音することで、その言葉の正しい音を覚えていきます。

絵本も効果的！

絵本の読み聞かせ等で、いろいろな言葉を伝えていくことも効果的です。

普段の遊びが文字につながる！

子どもは、遊びを通して、文字を書く準備をしています。たくさん遊ばせましょう。

- ・クレヨンや鉛筆で色々な線をかく。
- ・指を使った遊び（あやとり、手遊び等）をする。
- ・言葉遊び（カルタ、しりとり等）をする。

いつでも、覚えたいときに！

子どもが、文字に興味をもち、覚えたい気持ちになっているときは、短期間ですぐに覚えてしまいます。自分から覚えたそうなどときには、ていねいに正しく教えましょう。その気が無いときに、無理強いするのは、逆効果です。

元気に遊んで！

体全体の機能が発達してこないと手指の機能は高まりません。まずは、走り回ったり、鉄棒にぶら下がったり、外で元気に遊ばせましょう。

相談事例 ⑤ 文字が書けない

来年小学校に入学するうちの子は、毎日ノートで練習しているのに、文字がほとんど書けません。どうしたらいいでしょう。

小学校では

小学校では、入学してからひらがなを一文字ずつていねいに学習していきます。入学前に誤った癖（鉛筆の持ち方や筆順等）がついてしまうと、小学校での指導が入りにくい場合もあります。入学前に無理に書けるようにすることはありません。ひらがな表記の自分の名前が読めるようになっていれば、安心です。